

後年ニ附證拠差入申候一札

一去ル未年

勝田大社天火ニ御焼失後御造當御取懸り無之内、申年凶作ニ付相延居申候處、世上融通已前ニ復し兼容易ニ再建之相談も発端

存付候面々茂無之處、兼々隱徳之志厚鹿嶋

次郎右衛門殿誠実懇切之和談被取扱、誠ニ神慮之なさしむる所与一統感服仕候ニ付

一昨丑年月日を経ずして速ニ町在和談相調在中人夫之儀茂案外之出精申出候儀者

全次郎右衛門殿旧年積善余徳と一統帰服いたし申候故之儀、則明ル寅春より御取懸りニ

相成候處、往古確立之砌諸職人共出所不分ニ候得共、其後諸繕之節者、町方職人而已ニ而

當來候、然ル處、此度者確立ニ而大造事ニ付

右次郎右衛門殿計を以町在職人入込ニ差出候尤己後宇葺替又者御破損所繕等之砌

是迄之通町方職人而已ニ而相當候儀約

并ニ此度大数之人夫致出精候得共是又已後ハ先規之通差出候儀約ニ而相済可申之處、懸違

之儀也有之御両所様御心配被下、右之通ニ而相済候處相違無御座候、仍ニ為後年之書附

差入申候處如件

勝田大社氏下

宮庄屋惣代

勝田村祐三郎判

米原村儀右衛門判

和田村喜三右衛門判

竹之内村宗右衛門判

大崎村喜右衛門判

天保十四年卯十一月

大谷九右衛門殿

深田三郎右衛門殿

(裏書)

右本書十一月十二日相見候
写取置岡本屋伊右衛門を以
鹿出へ廻し置事